



T O P I C S

11月19日(土) 下田市立図書館において、「一日えほんとしょかん in 下田」が開催されました。「一日えほんとしょかん」は、地域の子どもたちに本との出会いの場を提供するために、県立中央図書館と市町図書館・図書室が協力して行っている事業です。本年は既に、龍山村、佐久間町(どちらも現浜松市)、松崎町、西伊豆町、富士川町で行われ、いずれの会場も大変盛況でした。

今回は下田市立図書館2階を会場に、子ども図書研究室から約400冊の絵本などを展示しました。ボランティアの協力を得ておはなし会も催され、やはり多くの子どもたちでにぎわいました。(下田での様子について、裏面でご紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

- 「鬼の本」(1月中旬まで)
- 「赤木かん子氏紹介資料」(12月末まで)
- 「代田知子氏紹介資料」(12月末まで)
- 「第17回読書感想画中央コンクール指定図書」
- 「静岡県教育研究会学校図書館研究部推せん図書」

イベント情報

子ども図書研究室講座

「中学生への読み聞かせ 学校図書館から見た中学生の読書」

講師：原田 栄子氏(静岡市立西豊田小学校 学校司書)

日程：

平日コース 平成18年1月24日(火)2月7日(火)

土曜コース 平成18年1月21日(土)2月4日(土)

*平日コース・土曜コースとも同内容の2回連続の講座です。

時間：9:45~12:00

会場：静岡県立中央図書館 1階 子ども図書研究室

定員：各コース20名(中学生を除いた15歳以上の方対象)

申込み：平成17年12月14日(水)より

電話、FAX、メールまたは直接県立中央図書館へ。

申込み・問合せ先：静岡県立中央図書館企画振興課

TEL:054-262-1246 FAX:054-264-4268

Eメール:mailmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

新着図書から

『まてまてまて』



こばやし えみこ / 案
ましま せつこ / 絵
こぐま社
2005年9月

小さな子どもたちは追いかけてっこが大好き。元気にハイハイで逃げる子を仲良しのぬいぐるみたちが「まてまてまて」と追いかける。

「まてまてまて」という言葉の繰り返しが楽しい本。わらべうたシリーズとなっているが、歌というよりも、唱えうたのような単純なリズムで、歌と生活とを結びつけている。

わらべうた絵本と言えばこの人という、ましませつこ / 絵のわらべうたえほんシリーズとして、『ととけっこう よがあげた』『あがりめさがりめ』『あんたがたどこさ』がある。(栗山)

『僕らの事情。』



デイヴィッド・ヒル / 著
田中 亜希子 / 訳
求龍堂
2005年9月

主人公は15歳の少年。ジョークが飛び交う毎日であるが、恋に家庭に色々な悩みもある。難病の筋ジストロフィーを患っている彼の親友サイモンは、明るく、鋭いユーモアの持ち主。病気であることを利用してうまく宿題をさぼったり、主人公がひそかに思いをよせている女の子と気軽に口を聞いたり、サイモンをうらやましく思うことがある。その一方で、確実に死に向かう親友サイモンを通して、主人公は、生と死、人と人との関わりを考える。難病を題材にした涙をさそうだけの話ではない。(殿岡)

一日えほんとしょかん in 下田 報告

前日の準備から「一日えほんとしょかん」は始まる。ちょうど図書館に来ていた子どもたちの期待の目を感じながら、下田市立図書館の職員の方々と力を合わせて、絵本の入った重いコンテナを階段で2階へ運び上げた。会場である図書館2階のスペースには、既に心尽くしの飾り付けもなされていた。折り紙で作った干し柿、かわいいイラストの入った案内板、色紙で作った天使やマトリョーシカ人形など、会場の雰囲気実に暖かい。四角形や円形の机を並べ、その上に絵本を置きながら、細かな調整をしてゆく。今回は、下田市立図書館の要望も伺って、大型絵本、昔話の絵本、乗り物の絵本、「こどものとも」(雑誌)、外国語の絵本、冬の絵本などの約400冊を展示した。



当日朝10時から「一日えほんとしょかん in 下田」は始まった。最初に入ってきた子どもたちは、初めは恐る恐る本に手を伸ばしていたが、次第に並べられているたくさんの絵本を自由に楽しみ始めた。人気はやはり大型絵本。床に敷かれたカーペットの上で、普段余り目にすることのない大型絵本を一生懸命めくっている。



次第に参加者が増え、午前10時半からは、当地のボランティアグループ「鮎の詩」によるおはなし会が始まった。絵本の読み聞かせのほか、言葉遊びや方言による読み聞かせなど、様々な工夫のなされた盛り沢山のプログラムで、集まった子どもも大人も大いに楽しんだ。「鮎の詩」は、活動歴10年ほどで、普段は保育園、幼稚園、小学校、老人福祉施設などで活動を行っている。終了後には、また絵本を手に取り、家族で楽しむ姿が会場中で見られた。



午後1時半からは、県立中央図書館職員によるおはなし会が行われた。よくおはなしを聞き慣れている、熱心な聞き手たちに助けられ、なごやかな会となった。おはなし会終了後はやはり残って絵本を楽しむ家族連れが多く、会場が大変にぎわって狭く感じたほどであった。



名残惜しくも午後3時に終了すると、再び絵本をコンテナに戻し、1階へ運び下ろした。大型絵本は、持って来た15冊すべてをそのまま下田市立図書館への協力貸出として残し、ボランティアの方々や学校の先生方に、ひと月の間利用していただくこととなった。当日の入場者数は94人、うち子ども61人。集まった子どもたちが心から本を楽しんでくれた様子を、下田市立図書館の方々と共に、私ども県立中央図書館職員も大変うれしく感じた。(鈴木)